

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年11月14日

【四半期会計期間】 第15期第1四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 株式会社オウケイウェイヴ

【英訳名】 OKWave

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 兼 元 謙 任

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区恵比寿一丁目19番15号

【電話番号】 03-5793-1191 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理本部長 野 崎 正 徳

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区恵比寿一丁目19番15号

【電話番号】 03-5793-1191 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理本部長 野 崎 正 徳

【縦覧に供する場所】 株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第14期 第1四半期 連結累計期間	第15期 第1四半期 連結累計期間	第14期
会計期間		自 平成24年 7月1日 至 平成24年 9月30日	自 平成25年 7月1日 至 平成25年 9月30日	自 平成24年 7月1日 至 平成25年 6月30日
売上高	(千円)	375,791	809,783	2,698,575
経常損失()	(千円)	38,073	126,240	97,924
四半期(当期)純損失()	(千円)	27,579	108,838	361,936
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	30,910	107,433	352,249
純資産額	(千円)	1,970,635	1,542,286	1,649,459
総資産額	(千円)	2,231,086	2,144,746	2,398,765
1株当たり四半期(当期) 純損失金額()	(円)	3.21	12.64	42.06
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	88.2	71.8	68.6

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等を含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、新たに締結した重要な契約は次のとおりであります。

(サービス利用契約の締結)

当社は、平成25年9月にエヌ・ティ・ティレゾナント株式会社との間で、「オウケイウェイヴQ&A サービス利用契約」を締結しております。本契約にもとづき、当社は「OKWave」のコンテンツをエヌ・ティ・ティレゾナント株式会社が運営するポータルサイト「goo」に提供しております。コンテンツの著作権は基本的に両社共有となります。

(事業の譲受)

当社の米国子会社OKWave Inc.は、平成25年4月1日に米国Davia, Inc. (本社：米国カリフォルニア州、CEO：Logan Deans) から、バースデーカレンダーアプリなどのデジタルグリーティングカード事業を譲り受ける契約を締結しております。

事業譲受の詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(企業結合等関係)」に記載のとおりであります。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

全般的概況

当第1四半期連結累計期間(平成25年7月1日～平成25年9月30日)における我が国経済は、財政政策を背景に輸出関連企業を中心に業績が好転し、雇用情勢が改善してまいりました。個人消費も緩やかに上昇し、本格的な景気回復への期待が高まっております。しかしながら、消費税の増税や保険料負担増加などの動向により、注視が必要な状況は続いております。

このような環境のもと、当社におきましては、提供中のサイトでの新機能追加やサービス刷新による満足度向上に努めました。また、各サービスの認知拡大を目的としたマーケティングにも積極的に取り組みました。加えて、連結子会社株式会社ブリックスの平成25年6月までの実績を連結したことにより、売上高は809,783千円(前年同期比115.5%増)となり、利益面につきましては、営業損失は117,040千円(前年同期37,693千円の損失)、経常損失は126,240千円(前年同期38,073千円の損失)、四半期純損失は108,838千円(前年同期27,579千円の損失)となりました。

	当第1四半期 連結累計期間 (千円)	前第1四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	809,783	433,991	+115.5
営業損失()	117,040	79,347	
経常損失()	126,240	88,167	
四半期純損失()	108,838	81,258	

セグメントの概況

セグメント別の状況は以下のとおりであります。

なお、当第1四半期より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。また、各事業分野のセグメント利益は、全社費用175,317千円(前年同期103,118千円)を含まない額であります。

・ソーシャルメディア事業の概況

ソーシャルメディア事業では、日本最大級のQ&Aサイト「OKWave(オウケイウェイヴ)」のほか、Q&Aから派生した様々なサービスを運営しています。

当第1四半期においては、昨年度に引き続きスマートフォン向けサイトの最適化に注力しました。これにより、スマートフォンでも快適にお使いいただける環境が整い、利用者数は堅調に推移しました。加えて、人気の高い「医療」「女性向け」のコンテンツを強化しました。グローバル展開としては、多

言語Q&Aサイト「OKWave ありがとう（オウケイウェイヴ ありがとう）」において日本の文化を多言語で紹介するコーナー『カルチャージン』のコンテンツを拡充しました。コンテンツ強化は、各サイトの閲覧者数増加につながっております。さらに、米国の連結子会社OKWave Inc.では7月から新体制に移行し、サービス拡大に努めました。連結子会社オーケーライフのサービス「OKMusic（オウケイミュージック）」におきましても、市場環境に対応しスマートフォン向けアプリの提供を開始し、利用者数を拡大しました。

以上の結果、ソーシャルメディア事業の売上高は前年同期比増加となりましたが、利益面では、子会社の新体制への移行にかかる人員増や先行投資費用が発生したことからセグメント損失を計上し、次のとおりとなりました。

	当第1四半期 連結累計期間 (千円)	前第1四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	161,293	41,842	+35.0
セグメント損失()	13,122	10,108	

・エンタープライズソリューション事業の概況

エンタープライズソリューション事業では、FAQ（よくある質問）を作成、編集、公開する一連の流れを搭載した、特許技術を有するシステム「OKBiz（オウケイビズ）」など、企業向けのソリューションを提供しています。

当第1四半期においては、企業向けサービスを統合し、『OKBiz for Support Enterprise Suite（オウケイビズフォーサポートエンタープライズスイート）』としてトータル提案を開始しました。トータル提案により、新規受注ならびに既存導入企業からの追加受注が進み、売上高は堅調に推移しました。利益面に関しても、体制強化により生産性が向上し、前年同期比増益となりました。

以上の結果、エンタープライズソリューション事業の業績は、次のとおりとなりました。

	当第1四半期 連結累計期間 (千円)	前第1四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	266,439	17,632	+7.1
セグメント利益	111,410	15,846	+16.6

・ナレッジマーケット事業の概況

ナレッジマーケット事業では、知識流通という概念で、モノのまとめサイト「myFave（マイ・フェイブ）」、知識売買サイト「High500（ハイファイブハンドレッド）」、ならびに複数の課金制モバイルサイト()を運営しています。

当第1四半期においては、「myFave」をリニューアルし、好みに合った商品を見つけやすい構造に変更しました。「High500」においては、著名人のオンラインセミナーをサイト上で販売するなど、新たな形式の知識売買に取り組みました。課金制モバイルサイトにおいては、テレビドラマとのタイアップをはじめとしたマーケティングが奏功し、月額会員数が増加しました。以上のことから売上高は前年同期比で124%成長しました。費用面では、新サイトの準備や追加開発にかかる費用が、売上に対し先行して発生したことによりセグメント損失を計上しております。

以上の結果、ナレッジマーケット事業の業績は、次のとおりとなりました。

()スマートフォンや従来型携帯電話向けに提供している課金制サイト

	当第1四半期 連結累計期間 (千円)	前第1四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	16,872	9,340	+124.0
セグメント損失()	51,306	24,181	

・多言語CRM事業の概況

連結子会社株式会社ブリックスの主要な事業である多言語CRM事業では、24時間365日体制で運営する多言語のコンタクトセンターを運営し、カスタマーサポート業務を提供しています。

当第1四半期においては、国際送金サービスの多言語カスタマーサービスや、大手予備校向けのシステム開発ならびにシステムメンテナンスが収益に貢献しました。新たな取り組みといたしましては、当第1四半期の業績には影響しておりませんが、野村総合研究所と矢野経済研究所が行うASEAN進出日系企業へのアンケート調査依頼にかかる案件を受託し、前期までにすでに提供していた言語に加え、タイ語、ベトナム語など、ASEAN諸国の言語への対応を開始しております。

以上の結果、多言語CRM事業の売上、利益は順調に進捗し、次のとおりとなりました。

	当第1四半期 連結累計期間 (千円)	前第1四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	222,699		
セグメント利益	13,036		

・営業アウトソーシング事業の概況

連結子会社株式会社ブリックスの事業である営業アウトソーシング事業では、短期・中期的に、顧客企業が必要とする販売スタッフの労働力を、業務請負および派遣契約により提供しています。

当第1四半期においては、主力の光回線販売について、市場の縮小傾向が見られる状況のなか、NTT関連事業によるストックビジネスに注力いたしました。

以上の結果、市場環境の変化に対応し、効率運用に向けた体制構築を行ったことにより、セグメント損失を計上しておりますが、売上高は順調に進捗し、次のとおりとなりました。

	当第1四半期 連結累計期間 (千円)	前第1四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	142,477		
セグメント損失()	1,740		

(2) 財政状態の分析

(ア)資産

当第1四半期連結会計期間末における資産残高は、主に現金及び預金の減少により2,144,746千円(前連結会計年度末比254,019千円減少)となりました。

(イ)負債

当第1四半期連結会計期間末における負債残高は、主に買掛金の減少により602,459千円(前連結会計年度末比146,846千円減少)となりました。

(ウ)純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、主に利益剰余金の減少により1,542,286千円(前連結会計年度末比107,173千円減少)となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,320,000
計	19,320,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,611,000	8,611,000	名古屋証券取引所 (セントレックス)	単元株式数 100株
計	8,611,000	8,611,000		

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成25年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日(注)	3,000	8,611,000	895	970,435	895	940,235

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,607,500	86,075	
単元未満株式	普通株式 500		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	8,608,000		
総株主の議決権		86,075	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式60株が含まれております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	819,400	606,520
受取手形及び売掛金	516,407	375,382
有価証券	300,000	300,000
その他	89,857	105,396
貸倒引当金	1,360	1,608
流動資産合計	1,724,305	1,385,690
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	66,558	74,736
減価償却累計額	36,456	40,622
建物及び構築物(純額)	30,102	34,113
工具、器具及び備品	406,387	430,574
減価償却累計額	321,568	332,977
工具、器具及び備品(純額)	84,819	97,597
有形固定資産合計	114,921	131,710
無形固定資産		
ソフトウェア	211,051	195,375
ソフトウェア仮勘定	43,176	66,791
のれん	1,318	52,727
その他	14,716	14,880
無形固定資産合計	270,263	329,775
投資その他の資産		
投資有価証券	37,972	37,966
その他	315,065	356,094
貸倒引当金	63,762	96,491
投資その他の資産合計	289,275	297,569
固定資産合計	674,460	759,055
資産合計	2,398,765	2,144,746

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	205,621	97,753
未払金及び未払費用	227,239	250,482
未払法人税等	2,176	3,212
短期借入金	113,610	43,698
1年内返済予定の長期借入金	13,908	10,008
賞与引当金	9,996	15,866
その他	115,058	116,820
流動負債合計	687,610	537,842
固定負債		
長期借入金	13,537	17,886
資産除去債務	32,329	32,361
その他	15,829	14,370
固定負債合計	61,695	64,617
負債合計	749,306	602,459
純資産の部		
株主資本		
資本金	969,539	970,435
資本剰余金	939,339	940,235
利益剰余金	261,176	370,014
自己株式	36	36
株主資本合計	1,647,664	1,540,618
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4	-
為替換算調整勘定	1,762	376
その他の包括利益累計額合計	1,757	376
新株予約権	1,531	-
少数株主持分	2,021	1,292
純資産合計	1,649,459	1,542,286
負債純資産合計	2,398,765	2,144,746

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)
売上高	375,791	809,783
売上原価	241,259	595,572
売上総利益	134,532	214,211
販売費及び一般管理費	172,225	331,251
営業損失()	37,693	117,040
営業外収益		
受取利息	324	214
貸倒引当金戻入額	300	320
雑収入	366	77
営業外収益合計	991	612
営業外費用		
支払利息	90	547
貸倒引当金繰入額	-	8,400
為替差損	1,101	776
雑損失	178	88
営業外費用合計	1,371	9,811
経常損失()	38,073	126,240
特別利益		
新株予約権戻入益	473	1,302
特別利益合計	473	1,302
特別損失		
固定資産除却損	5,047	-
特別損失合計	5,047	-
税金等調整前四半期純損失()	42,647	124,937
法人税、住民税及び事業税	635	702
法人税等調整額	14,352	16,072
法人税等合計	13,716	15,370
少数株主損益調整前四半期純損失()	28,931	109,567
少数株主損失()	1,351	729
四半期純損失()	27,579	108,838

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	28,931	109,567
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	4
為替換算調整勘定	1,976	2,138
その他の包括利益合計	1,979	2,134
四半期包括利益	30,910	107,433
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	29,559	106,704
少数株主に係る四半期包括利益	1,351	729

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)
減価償却費	65,146千円	73,292千円
のれんの償却額	760	2,799

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年9月22日 定時株主総会	普通株式	21,496	250.00	平成24年6月30日	平成24年9月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソーシャル メディア 事業	エンター プライズ ソリューション 事業	ナレッジ マーケッ ト事業	多言語CRM 事業	営業アウ トソーシ ング事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	119,451	248,807	7,532			375,791		375,791
セグメント間の内部売上高又は振替高								
計	119,451	248,807	7,532			375,791		375,791
セグメント利益 又はセグメント損失 ()	3,013	95,563	27,125			65,424	103,118	37,693

(注)1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年7月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソーシャル メディア 事業	エンター プライズ ソリューション 事業	ナレッジ マーケット 事業	多言語CRM 事業	営業アウ トソーシ ング事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	161,293	266,439	16,872	222,699	142,477	809,783		809,783
セグメント間の内部売上高又は振替高		750		430	918	2,098	2,098	
計	161,293	267,189	16,872	223,129	143,395	811,881	2,098	809,783
セグメント利益 又はセグメント損失 ()	13,122	111,410	51,306	13,036	1,740	58,276	175,317	117,040

- (注)1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに
 帰属しない管理部門等に係る費用であります。
 2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントを変更し、従来の「ポータル事業」及び「ソリューション事業」を「ソーシャルメディア事業」、「エンタープライズソリューション事業」及び「ナレッジマーケット事業」に再編しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントに基づき作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ソーシャルメディア事業」セグメントにおいて、Davia, Inc.よりバースデーカレンダーなどのウェブサイト(Davia.com)及び有料アプリなどのデジタルグリーティングカード事業を譲り受けております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては54,208千円です。

(企業結合等関係)

当第1四半期連結会計期間(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 相手先企業の名称及び取得した事業の内容

相手先企業の名称：Davia, Inc.

取得した事業の内容：パースデーカレンダーなどのウェブサイト(Davia.com)及び有料アプリなどのデジタルグリーティングカード事業

(2) 企業結合を行った理由

取得するサービスはオウケイウェイヴが運営する20カ国語対応のソーシャル多言語コミュニティ「OKWave ありがとう」(<http://arigato.okwave.com/>)等との親和性が高く、両サービスとの連携を進めることで、「OKWave ありがとう」のさらなる活性化を図るとともに、米国を拠点に日本を含む海外へサービス展開を進めていく考えです。

(3) 企業結合日

平成25年4月1日

(4) 企業結合の法的形式

事業譲受け

(5) 結合後企業の名称

OKWave Inc.

(6) 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とする事業譲受のため。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる取得した事業の業績期間

平成25年7月1日から平成25年9月30日まで

3. 取得した事業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	500千米ドル
取得に要した費用	アドバイザー費用等	49千米ドル
取得原価		549千米ドル

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん金額 549千米ドル

(2) 発生原因 今後の事業展開によって期待される超過収益力

(3) 償却方法及び償却期間 5年間の均等償却

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純損失金額()	3.21円	12.64円
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	27,579	108,838
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	27,579	108,838
普通株式の期中平均株式数(株)	8,602,228	8,607,973
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月13日

株式会社オウケイウェイヴ

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 阿 部 功 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菊 地 徹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オウケイウェイヴの平成25年7月1日から平成26年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オウケイウェイヴ及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。